

倶多楽の火山活動解説資料（平成 22 年 4 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

活動概況

・噴煙及び熱活動（図 2 ～ 6）

日和山の噴煙の高さは火口縁上 50m 以下で、これまでの現地調査と比較して特段の変化はなく、噴煙活動は低調に推移しました。

26 日に現地調査を実施しました。日和山の噴気温度は 142 で前回（2009 年 11 月：132）と比べやや上昇していました。大湯沼、地獄谷等の噴気や地表面温度分布には大きな変化はありませんでした。

・地震活動（図 7）

広域ネットによる観測では、倶多楽付近を震源とする地震は少ない状態で経過しました。

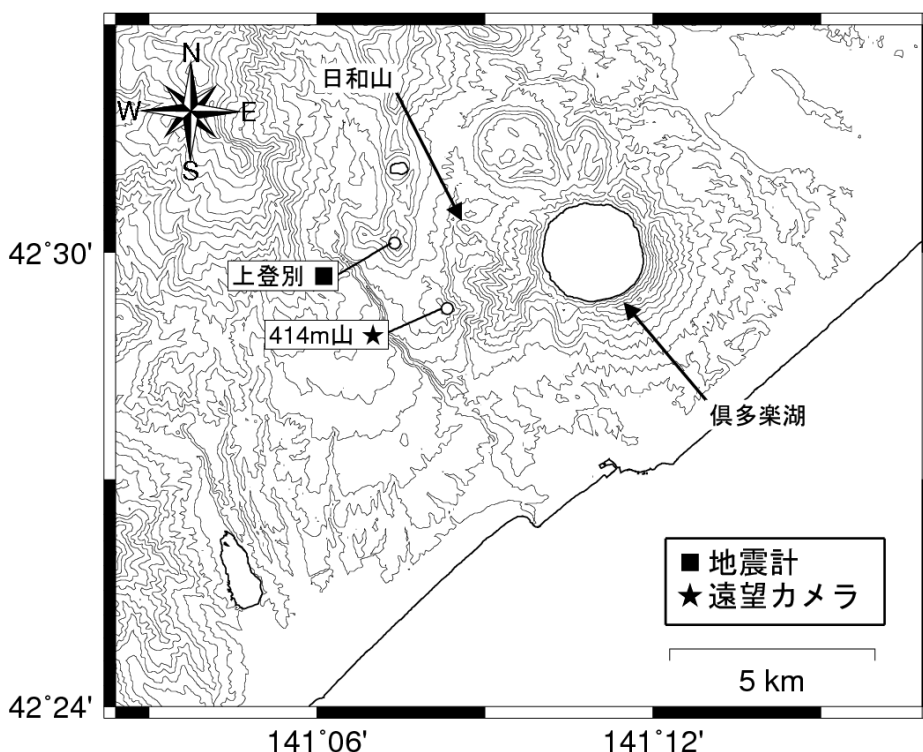


図 1 倶多楽 観測点配置図

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 22 年 5 月分）は平成 22 年 6 月 8 日に発表する予定です。

資料は気象庁のほか、北海道大学、独立行政法人産業技術総合研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。また、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 20 業使、第 647 号）。

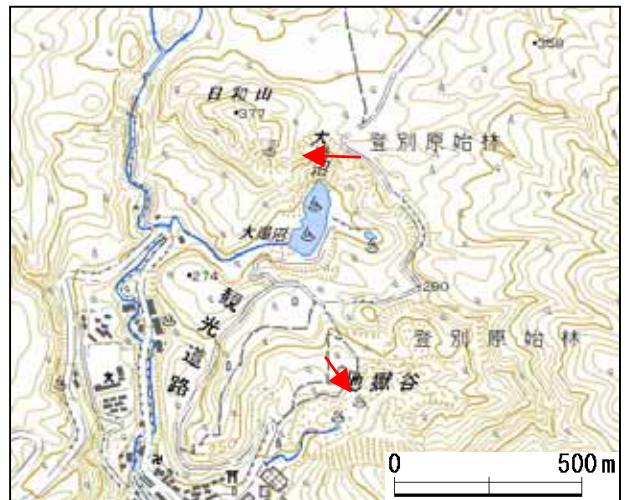


図 2 倶多楽 地獄谷の状況
(2010 年 4 月 26 日 図 3 の 方向から撮影)

図 3 倶多楽 日和山・地獄谷周辺図

・地獄谷爆裂火口、大湯沼の状況は前回（2009 年 11 月）と大きな変化はありませんでした。

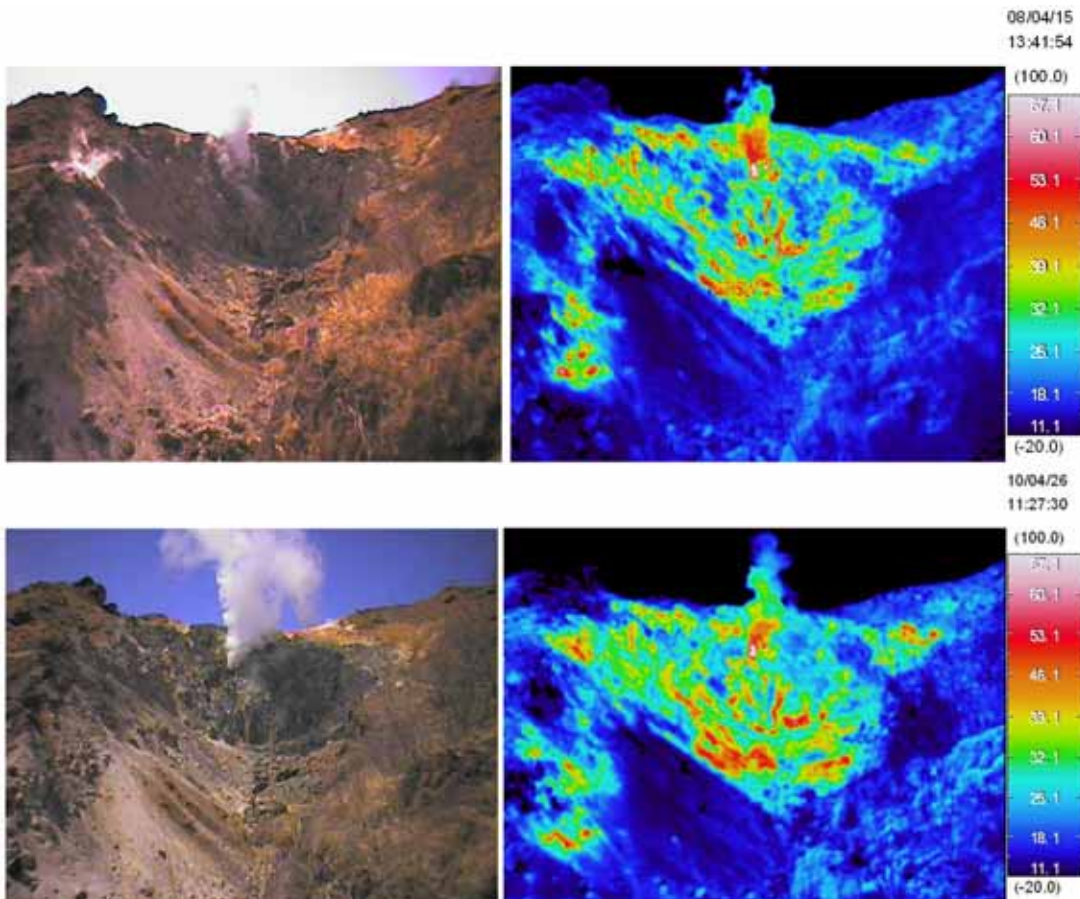


図 4 倶多楽 赤外熱映像装置¹⁾による日和山山頂爆裂火口の地表面温度分布
(上段：2008 年 4 月 15 日 下段：2010 年 4 月 26 日 図 3 の 方向から撮影)

・赤外熱映像装置¹⁾による観測では、山頂爆裂火口の地表面温度分布に変化はありませんでした。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

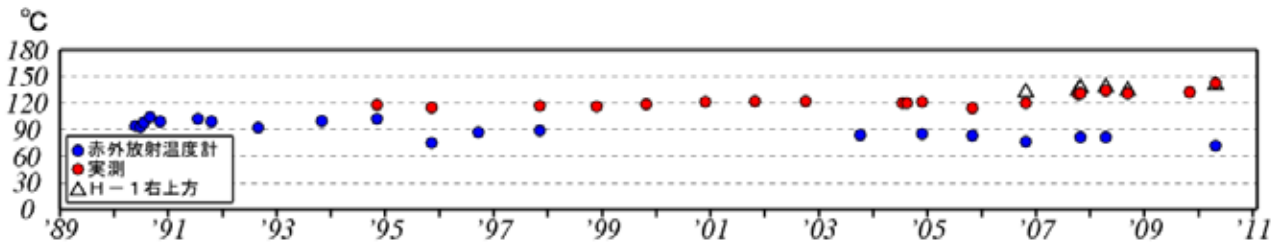


図 5 倶多楽 日和山爆裂火口北西側噴気孔 噴気温度の推移

・日和山山頂爆裂火口の状況に変化はありませんでした。噴気温度（実測）は 2006 年までは約 120 でほぼ一定に推移していましたが、2007 年以降緩やかな昇温傾向が見られ、今回の観測では約 140 でした。

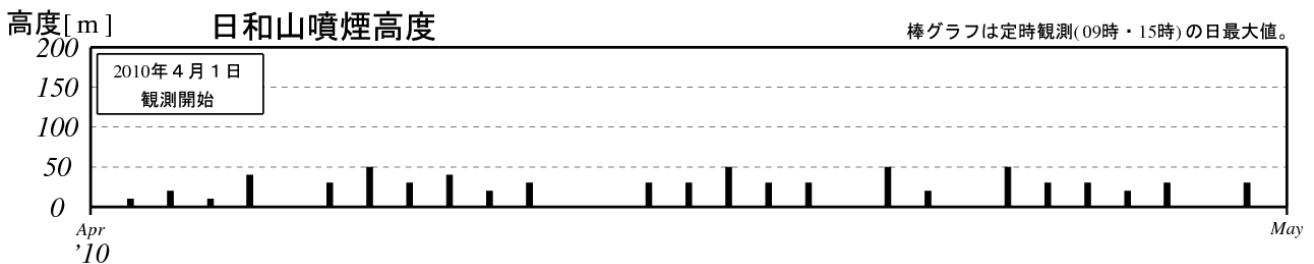


図 6 倶多楽 日和山噴煙高度グラフ（2010 年 4 月）

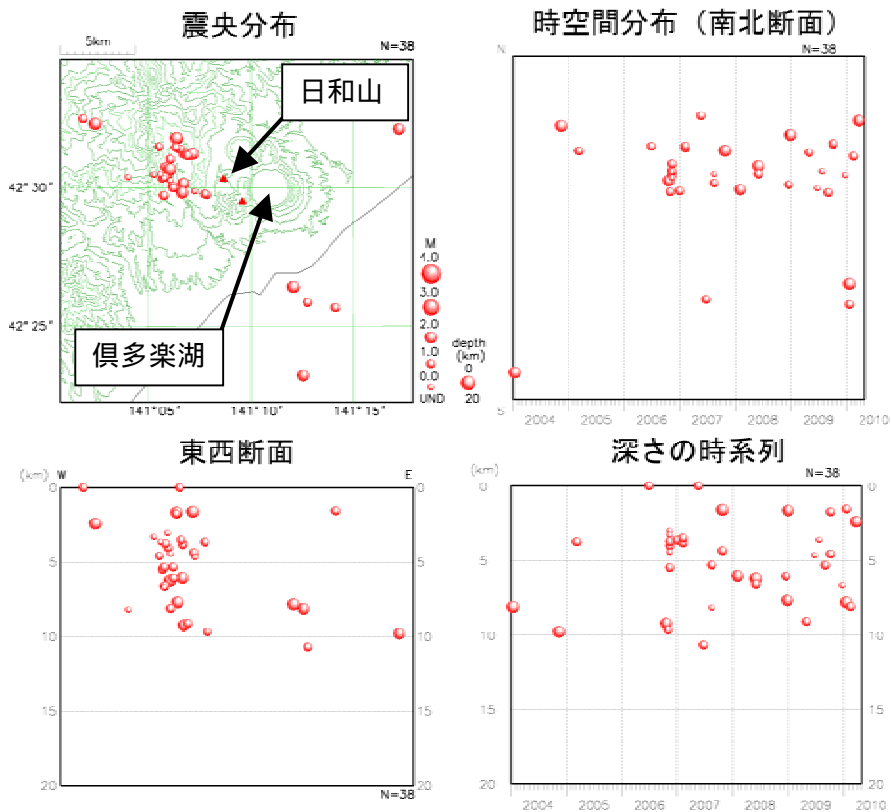


図 7 広域ネットによる倶多楽周辺の地震活動(2004 年 1 月～2010 年 4 月)

マグニチュード (M) は地震の規模を表します。資料中の震源要素は一部暫定値で、後日変更することがあります。

・広域ネットによる観測では、倶多楽付近を震源とする地震は少ない状態で経過しました。

地震観測点上登別は 2009 年 9 月 5 日以降機器障害のため欠測しています。このため地震回数表、月回数グラフは掲載していません。